

# 【所蔵作品展】 少年☆少女雑誌 ふろく花伝

～明治から令和へ続く日本文化～

2021 (令和3) 年7月3日 (土) ～9月26日 (日)

近年の書店では婦人雑誌を中心にバッグやポーチなどの豪華なふろくが、数多く並べられています。日本人にとっては親しみのある「ふろく」ですが、これほどまでに多様な発展を遂げているのは他の国にはみられず、日本独自の文化といえます。

戦前の少年雑誌『少年倶楽部』は、「軍艦三笠の大模型」「エンパイア・ビルディング」など、他紙では見られない大型の組み立てふろくを付けて、少年たちを熱狂させました。

一方、少女雑誌のふろくは、戦前から戦後までレターセットやカードなどの「紙もの」ふろくが愛され続け、中原淳一や松本かつぢといったイラストレーターや、戦後は人気マンガ家の絵があしらわれたことで価値を高めました。

紙文化が豊かな日本だからこそ育まれたふろくの歴史を、主に少年雑誌・少女雑誌に注目してご紹介いたします。

## みどころ① ダイナミックで破天荒！ 戦前の少年雑誌ふろく



①ガスマスク『日本少年』  
(實業之日本社) 1933年3月号  
中山かつみ／撮影



②動き出す人造人間『日本少年』  
(實業之日本社) 1932年2月号  
中山かつみ／撮影

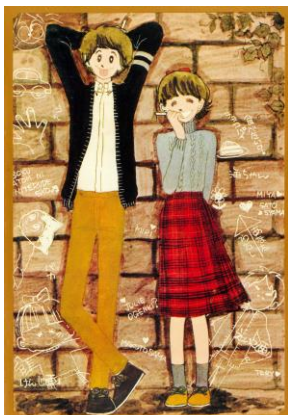
「ふろく」という言葉は明治中期から登場しますが、この頃は「通常とは異なった企画」程度の意味合いで使用されており、私たちがイメージするふろくとは、大きくかけ離れていました。その後、正月号だけに付く「すごろく」がふろくの定番となります。昭和初期からは、戦前の少年雑誌『少年倶楽部』が大型の組み立てふろくを展開したことで、その他の少年雑誌も触発され、華やかなふろく合戦が繰り広げられました。

少年雑誌のふろくは社会情勢を反映しやすく、当時の流行や事件を見て取ることができます。戦前は教育・軍事系ふろくでしたが、戦後は電化製品やピストル、探偵ものなどに変化していきました。しかし雑誌の週刊化や材質の耐久性の問題などにより、少年ふろくは衰退してしまいました。

## みどころ② いつまでもかわいい♡ 少女雑誌ふろく



③幸福のゆびわ『りぼん』  
(集英社) 1961年9月号



④アイビーノート『りぼん』  
(集英社) 1975年11月号  
陸奥A子／画

少女雑誌のふろくも戦前は少年雑誌にならった展開がされますが、少女たちの心を捉えたのは、雑誌『少女の友』で活躍していた中原淳一のイラストをあしらったカードやレターセット、詩集などの小さな紙ものふろくでした。少女ふろくは雑誌で活躍するマンガ家やイラストレーターの絵が描かれることで、市販品より魅力的なものとなりますが、この流れは時代が移っても変わることはありませんでした。

戦後間もないころは、指輪やブローチなどのおしゃれ小物が人気となり、1970年代に入ると少女マンガ雑誌『りぼん』が陸奥A子といった同誌の若手マンガ家を積極的にふろくに起用しました。おしゃれでかわいいふろくは少女たちだけでなく、高校生や大学生にも支持され、大人気となりました。

## 展覧会概要

|          |                                                                                                                             |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| タイトル     | 所蔵作品展「少年☆少女雑誌 ふろく花伝 ～明治から令和へ続く日本文化～」                                                                                        |
| 期間       | 2021（令和3）年7月3日（土）～9月26日（日）<br>※新型コロナウイルスによる緊急事態宣言に伴い、会期が変更になる場合があります。<br>※同時開催の弥生美術館『高島華宵展』、竹久夢二美術館『夢二×文学「絵で詩をかいてみた」』に準じます。 |
| 休館日      | 月曜日・火曜日<br>※7月19日（月・祝）、9月20日（月・祝）開館<br>※新型コロナウイルスの影響により、休館日が変更になる場合があります。                                                   |
| 開館時間     | 10:30～16:30（入館は16:00までをお願いします）<br>※新型コロナウイルスの影響により、開館時間が変更になる場合があります。                                                       |
| 入館料      | 一般1000円／大・高生 900円／中・小生500円<br>※入館にはオンラインによる事前予約（日時指定）が必要です。<br>※同時開催の弥生美術館『高島華宵展』、竹久夢二美術館『夢二×文学「絵で詩をかいてみた」』も鑑賞できます。         |
| 会場       | 弥生美術館（東京都文京区弥生2-4-3） 3階展示室                                                                                                  |
| 展示点数     | 戦前から戦後にかけての少年・少女雑誌ふろく 50～100点（予定）                                                                                           |
| 交通       | 地下鉄千代田線「根津駅」1番出口より徒歩7分<br>地下鉄南北線「東大前駅」1番出口より徒歩7分<br>JR「上野駅」公園口より徒歩25分                                                       |
| ホームページ   | <a href="https://www.yayoi-yumeji-museum.jp/">https://www.yayoi-yumeji-museum.jp/</a>                                       |
| 広報お問い合わせ | 弥生美術館 TEL: 03-3812-0012（10:30～16:30）<br>FAX: 03-3812-0699<br><br>担当学芸員／外館恵子（とだて・けいこ）                                        |

### ■広報用画像の貸出について

①～④の作品画像は、いずれも広報用画像として無料で貸出しております。貸出しの条件は次のとおりです。

1. 展覧会（所蔵作品展「少年☆少女雑誌 ふろく花伝」）の会期中または会期前に発行される記事であること。
2. 著作権表記などの写真キャプションは必ず表記してください。
3. 原則として、トリミングや文字載せはご遠慮ください。
4. 画像の二次使用はお断りしております。

★広報用画像をご希望の場合は、上記の担当学芸員までご連絡ください。

※新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、開催内容、開館時間等が変更になる可能性がございます。最新情報はホームページにてご確認ください。